

第8回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

議事要旨

日時：令和2年9月25日（金） 13：30～15：30

場所：Web会議

1. 開会

2. 開会あいさつ

（中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長）

3. 委員長挨拶

4. 議事

(1) 復旧計画（案）について

事務局より、令和2年7月出水の概要（運用方法、施設状況）、復旧計画（案）、今後の方針を説明し、委員より主に以下の意見を頂いた。

- ・ 事務局より提示された品質確保と機能向上を目指した復旧方針、復旧計画（案）の基本的な考え方は妥当であり、委員会として了承された。
- ・ 復旧工事における施工に関しては、鋼製ライニング下部のコンクリート打設方法、現在残存しているインバートの撤去期間、側方排水方式の排水経路等に留意すること。
- ・ インバート下部の基盤や覆工の側壁部の基礎についても高強度コンクリートが望ましい。
- ・ 土砂バイパスを運用できない復旧期間中は、分派堰から第3貯砂堰を有効に活用することで、貯水池内への土砂流入を抑制できるような対策を検討しておくこと。また、工程短縮の工夫により令和4年の梅雨期に間に合わせるような柔軟な対応も必要となる。
- ・ 施設の損傷状況、局所的な深掘れ等については、当初設計時の諸条件（水の流れ、土砂量、地質、施工・構造上の問題等）と今回の出水時の条件を比較するとともに、今後の詳細調査結果を踏まえ、損傷が拡大した要因について引き続き検証を進めること。また、今回、損傷が進まなかった箇所の実地分析も重要である。
- ・ 今後は、バイパス運用中の施設のモニタリングも重要であり、運用中にバイパスを停止する判断の考え方やモニタリング方法について検討することも必要である。
- ・ 損傷・摩耗量の想定では、土砂量の算定方法や摩耗式による推定方法が重要であるため、設計当初の条件との比較も含めて、モニタリング調査を活用し、引き続き検証する必要がある。

(2) 今後の方針について

- ・ 事務局より提示された復旧方針、復旧計画（案）を基本として復旧工事を進めていくこと
で了承を得た。

5. 閉会

以上